

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	内田 勝也	所属	情報セキュリティ大学院大学 名誉教授
研究会等名称	情報セキュリティ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員 9名（うち認定心理士 1名） 非会員 8名（うち認定心理士 0名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） (1) 月例会（2023.04～2024.03） 今年度も12回の月例会を実施した。 「2022年度各回概要」に各回の概要を記した。</p> <p>3) 新型コロナと研究会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナも落ちつき、ハイブリッドでの開催をとの意見もあり、9月からハイブリッド開催にしに、有償（1,000円/回 5,000円/6月）にしたが、全体的には参加者が、2名弱/月減少した。 ● コロナ前の参加者数（500円/人）と比較すると全体的に減少が目立つ（5人～15人） ● 3月には、「日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）」との共同開催だったが、全体的には参加者（特に、会場参加）が、PMAJも減少しているとの情報もある。 ● 毎月の開催、かつ、原則最終金曜日（夜）開催にも課題がある可能性がある。 <p>4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今年の特徴としては、参加者（44名）は多かったが、継続的な参加になっていない（1回のみ参加が、60%近い）。 ● コロナ前では、会場で参加費を払うものであったが、今回は、事前支払いのため、送金手数料がかかることがあり、また、面倒だと感じている可能性がありそう（検証が必要だが）。 ● 2月初に、セキュリティ技術者中心のワークショップに参加し、セキュリティ心理学の報告を行ったが、全体で50名程度の参加者の内、約10名が参加しており、興味を感じている傾向が従来より高まっている感じを受けた。 		

情報セキュリティ心理学研究会 《 2023 年度 月例会概要 》

1. LT(Lightning Talk)

日時 2023 年 04 月 21 日

報告者 内田 勝也

概要 ChatGPT を使ってみた

2. RSAC 2023 参加報告

日時 2023 年 05 月 26 日

報告者 内田 勝也

概要 1993 年から海外の Security Conference に参加してきたが、今年の RSA Conference が最も大きな変革を与えてくれたかも知れません。即ち、

- ① ChatGPT の出現、
- ② オンプレミスからクラウドへ、
- ③ セキュリティ対策の End Point への移行

で、個々を見る限り大きなイメージを持たないかも知れません。

勿論、ChatGPT 以外は特に新しいテーマではありませんが、『三本の矢』や『三人寄れば』の故事を引き合いに出すまでもなく、三テーマを統合的にみると大きな流れ、いや【津波】としてサイバーセキュリティ分野に流れ込んでくるのではないかと感じた。

3. ヒューマンエラーを考える

日時 2023 年 06 月 23 日

報告者 内田 勝也

概要 セキュリティ心理学で、ヒューマンエラー (Human error) は重要な課題として取り上げていますが、今般、マイナンバー関連業務で、多くのミス/エラー等が報告されています。

ヒューマンエラーを『人間が実施する又は省略する行為と、意図される又は要求される行為との相違』(JIS 2019) や、『意図しない結果を生じる人間の行為』であり、『人間の行為』を、①実施したもの(作為)と ②実施しなかったもの(不作為)がある(JIS 2000)と定義している。ここで、【人間】と書いてあるが、一人でも、複数でも人間であり、また、何らかの【行為】を行う場合、業務処理プロセスがあり、それを考えずに行為を行う(忘れた、未実行)こともある。今回は、マイナンバー関連するミス/トラブル等を見据えて考えたいと思っています。

4. リスクを考える

日時 2023 年 07 月 28 日

報告者 内田 勝也

概要 セキュリティ心理学を考察する上で、『リスク』を考えることも大切です。

特に、日本では、安全安心の社会と言ったりしますが、本来、安全は『安全性』として考えるように客観的な事柄ですが、安心は、『安心感』として考えられるように、主観的な事柄です。

安全で、安心な環境を多くの人が選択してくれることが大切ですが、実際には、安全だが、不安を感じる、危険な環境でも安全だと考える人が数多くいます。

リスクを考える上で、絶対安全や 100%安全は存在しませんが、【絶対に安全です】と勧誘して、多額の資金を集める悪徳商法も未だ絶えません。

今回は、リスクの観点から、セキュリティ心理学を考察したいと考えています。

5. ヒューマンエラーとマイナンバーを考える

日時 2023 年 08 月 25 日

報告者 内田 勝也

概要 2017 年の RSA Conference の Conference Awards は、NTT フェロー 岡本龍明さんは Mathematics で受賞、米国 Cyber Sec. Coordinator であった Howard Schmidt は、Information Security で受賞しました。

以前から、暗号関係の研究者は、情報セキュリティ分野ではないと言ってきましたが、国内では、情報セキュリティ分野だと考えていました。

その分野の専門性が高くなるほど、言葉が分化していくと聞いたことがあります。1つの言葉では、語れなくなれば、より詳細な言葉が生まれ、より明確な議論ができるようになっていきます。

マイナンバーカードでのトラブルでは、『人的エラー』でまとめられていますが、問題点を明確にするには、人的エラー(ヒューマンエラー)を更に詳細に見ることが大切だと考えています。大きな点からでも、①エラーに直接関係した人、②第三者、③業務推進環境等が考えられますが、

情報セキュリティ心理学研究会 《 2023 年度 月例会概要 》

更に、詳細な考察が必要だと考えています。

【9 月以降、ハイブリッド(オンライン&会場利用)の開催に！】

6. ISACA Security Conference 参加報告

日時 2022 年 09 月 22 日

報告者 二木 真明

概要 ISACA 主催の GRC (Governance, Risk, and Compliance) 2023 等の Conference が開催されたが、その参加報告です

注) ISACA : Information Systems Audit & Control Association: 情報システムコントロール協会

情報システム監査基準の作成、公認情報システム監査人等の資格認定を行い、IT ガバナンス・コントロール・セキュリティおよび情報システム監査の世界的な指導的役割を担う組織で、国内は、東京、大阪、名古屋、福岡に支部がある

7. 暗号、ハッシュ関数、ID/Password ～ 近頃 気になる 三題ばなし ～

日時 2023 年 10 月 27 日

報告者 内田 勝也

概要 かつて、個人情報漏洩の記者会見で「【パスワード暗号化】していますか?」と聞かれ、CIO は、控えの社員に確認したが、30 分程して、「【ハッシュ化】しています」とのメモが CIO に送られてきた。ハッシュ化と暗号化は同じなのか?

暗号の専門家からは、厳密に言えば、異なると言われたことがある。

確かに、『暗号化』した情報を第三者が【解読】しても、それが 暗号化前の情報かの判断は第三者にできない。

一方、『ハッシュ化』では、ある情報をハッシュ化した結果を元の情報に戻せない。

しかし、第三者がハッシュ化した結果が、元の情報をハッシュ化したものと同じであれば、【ハッシュ化前の情報】も同じになります。

現在では、ID/Password を複数持っているのが普通になっています。ID/Password でも、暗号やハッシュ関数が利用されています。

今回は、暗号、ハッシュ関数、ID/Password に関連するお話です。

8. ソーシャルエンジニアリング (SE) を考える

日時 2023 年 11 月 24 日

報告者 内田 勝也

概要 「ケビン・ミトニック」が、7 月 26 日に亡くなった (享年 59 歳)。伝説のハッカーと言われているが、攻撃手法は、『ソーシャルエンジニアリング』が中心であった。

ソーシャルエンジニアリングでは、『シークレット・オブ・スーパーハッカー』が、1995 年 11 月 (原著: 1994 年 1 月) に発売されたが、付表 (Appendix) が翻訳されず、『セキュリティ (臭いもの) には蓋』との考えが、セキュリティ専門家から指摘された。

ケビン・ミトニックの書籍は、あまり出版がなく、2003 年 6 月 (原著: 2002 年 10 月) に【欺術 (ぎじゅつ: The Art of Deception)】が出版されたが、翻訳の一部に原著ない事柄が何ら注釈もなく追加され、追加内容自体もケビンが言うとは考えにくいとの指摘があり、一時、書店から姿を消した。

この間、2000 年 1 月、NHK スペシャル 世紀を越えて『電腦社会 闇の侵入者』で、ハッカーを取り上げ、「電話利用のソーシャルエンジニアリング」テストだけでなく、米国議会公聴会で、ホワイト・ハッカーと議員との議論の一部も放映された。

国内では、技術中心で、ソーシャルエンジニアリングのような『ソフト・セキュリティ』はあまり話題にならなかった。

また、ソーシャルエンジニアリングは犯罪者ハッカーの利用の考えが根強いが、実際には、コンサルタントや医者、お笑い芸人等も定義を知らずに利用している。

今回は、ソーシャルエンジニアリングをもう少し広い分野から報告します。

9. 物理的セキュリティの考察

日時 2023 年 12 月 22 日

報告者 内田 勝也

情報セキュリティ心理学研究会 《 2023 年度 月例会概要 》

概要 近年の地球温暖化の影響と思われるが、台風やハリケーンの超大型化、「線状降水帯」の発生で、降雨量の増大等により、顕著な被害が発生している。
これにより、セキュリティ対策も、センター側だけでなく、端末機器や空調・電源等への影響も大きくなっている。
また、大気汚染 (CO2 の増大) は、温暖化でなく、寒冷化との指摘があるが、個人的には、「ヤカンの中の水が、下からの火によって温められれば、ヤカン内で対流が発生し、水は激しく動き、気候変動が激しくなり、温暖化にも寒冷化にも振れると、ド素人は考えます。
今回は過去の災害事例等の考察と心理面からの災害対策対応も含め、物理的セキュリティの考察を行います。

10. 心理的安全性を考える

日時 2024 年 01 月 26 日

報告者 内田 勝也

概要 古い友人の一人が1月2日の『羽田空港 JAL 機・海保機衝突事故』で、家族と JAL 機に搭乗しており、研究会参加を希望してきました。研究会参加であれば、貴重な経験を聞いてみる絶好の機会と判断しました。

【友人の近親者に不幸があり、招待できなかったが、来年度のどこかで招待する予定】

去る1月2日に、日本航空 (JAL) の飛行機と海上保安庁の飛行機が、羽田空港 滑走路で衝突事故で、海上保安官5名が死亡、1人が大けがをしました。

この事故の詳細は不明ですが、航空管制官は、海保機に滑走路への手前での待機を指示したが、海保機は滑走路に入ってしまった。今後、詳細な原因究明が行われるが、機長と他の乗務者との『権威勾配』があったのではないかと考えています。

即ち、機長の判断に対し、他の乗務者は、管制官の指示を滑走路手前で待機と思ったが、滑走路への誤侵入だとの声を上げられなかった可能性がある。

この様な事案は、他の業界にもあり、その1つが病院である。その例が大病院で、病院長以下、多くの関係者が病室を巡回するのは、山崎豊子「白い巨塔」でも有名であり、病院長の権威が高すぎるため、他の医局員が誤りをしきしないための事故も発生している。多くの組織で、上司への忖度があり、上司の誤りを指摘せず、事件・事故が発生して始めたそれが判明することがある。

航空機関連では CRM (Crew Resource Management)、病院は Team STEPPS と言われてきたが、最近病院では、『心理的安全性』とも言われている。今回は、心理的安全性を中心に報告を行います。

11. 災害弱者をどう守るか 【誰一人取り残さないアナウンスは可能か?】

日時 2023 年 02 月 22 日

報告者 内田 勝也

概要 2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分に『能登地方』を中心に 震度 7.6 の地震があり、大きな被害が発生しました。更に、津波の恐れもありました。

津波被害へのアナウンスとして、東日本大震災以降、冷静なアナウンスでなく、緊迫感や緊張感を交えたアナウンスがあり、今回の能登半島地震でも、『強い口調のアナウンス』が高い評価を得ています。

しかし、アナウンスが怖かったとの声も聞いています。今月の研究会は『誰一人取り残さない』アナウンスはどうあるべきかを考える。

12. セキュリティ心理学ってなに? ～ 人は城、人は石垣、人は堀 ～

日時 2024 年 03 月 22 日

報告者 内田 勝也

概要 セキュリティ心理学は海外では Human element、Security in Human 等と呼ばれ、この分野にはヒューマンエラー、ソーシャルエンジニアリング (Elicitation techniques)、教育・訓練、セキュリティ文化の確立をはじめ、CISO のメンタルヘルス問題も。

最近の大手研究機関の国内調査でも、セキュリティ事件/事故では、「標的型メール攻撃: 31.2%」、「マルウェア感染: 6.2%」、「ランサムウェア: 6.1%」等利用者攻撃中心で、更に1万人以上の企業では「退職者等の不正アクセス/持出: 16.3%」が報告されています。

情報セキュリティ心理学研究会
《 2023 年度 月例会概要 》

今回は、非技術的セキュリティ；セキュリティ心理学の報告です

(様式5)

2021年 03月 30日

情報セキュリティ心理学研究会 2020年度会計報告書

研究会名称 情報セキュリティ心理学研究会

研究会番号 16010

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年7月15日	CISCO WebEX利用料 (年間利用料: ¥19,668)	¥16,390
2023年9月1日	ワイム 貸会議室 利用料 (9月22日)	¥16,500
	ワイム 貸会議室 利用料 (10月27日)	¥16,500
	ワイム 貸会議室 利用料 (11月24日)	¥16,500
	ワイム 貸会議室 利用料 (12月22日)	¥16,500
2024年1月5日	ワイム 貸会議室 利用料 (01月26日)	¥16,500
2024年2月5日	ワイム 貸会議室 利用料 (2月22日)	¥16,500
	支出合計	¥-85,390
	研究会 補填分	¥85,390
	合計	¥0